



2016年9月30日

各位

会社名 マックスバリュ東海株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 神尾啓治  
 (コード番号: 8198 東証第二部)  
 問合せ先 取締役経営管理本部長 高橋 誠  
 (TEL. 055-989-5050(代))  
 当社の親会社 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田元也  
 (コード番号: 8267 東証第一部)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2016年4月13日に公表いたしました2017年2月期第2四半期連結累計期間の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2017年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正 (2016年3月1日～2016年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	111,800	1,950	1,900	770	43.26
今回修正予想 (B)	112,212	2,243	2,184	1,214	68.20
増減額 (B-A)	412	293	284	444	
増減率 (%)	0.4	15.0	14.9	57.7	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2016年2月期第2四半期)	108,911	1,817	1,773	584	32.89

#### 2. 修正の理由

2017年2月期第2四半期連結累計期間におきましては、地域性の高い地元商品の品揃え拡充等による地域密着経営の推進に加え、ポイント販促を軸とした節約志向への対応、消費二極化への取組みや夕方以降の販売強化策等、多様化するお客さまの価値観や消費行動、環境変化への対応を推進いたしました。これら取組みの相乗効果により、既存店の売上高は対前年同四半期比101.1%と堅調に推移し、売上総利益率につきましても改善の見通しであります。一方、販売費及び一般管理費につきましましては、継続的な経費削減効果等により既存店ベースで昨年実績を下回る見通しであります。これらの結果、営業収益に加え、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が各々前回予想を上回る見通しとなりました。

なお、通期の業績予想につきましましては、依然として先行きが不透明な消費動向を慎重に見極める必要あることから、2016年4月13日に公表いたしました業績予想を据え置いております。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上